



学内広報



2002. 2. 14
東京大学広報委員会



ソウル国立大学混声合唱団・音楽部コールアカデミー合同ステージ

(13ページに関連記事)

目次

一般ニュース	2
評議会（1月22日(火)）承認事項、副学長選考内規の暫定措置を定める内規の制定、東京大学安全管理委員会規則の制定、名誉博士の称号授与、評議会（1月22日(火)）報告事項、大学間学術交流協定、平成14年度入試に伴う臨時措置（本郷関係）について、平成14年度大学入試センター試験終わる、第2次学力試験（前期日程・後期日程）の出願受付終わる、平成14年度外国学校卒業学生特別選考の願書受付終わる、第2次学力試験（前期日程）及び外国学校卒業学生特別選考の受験者数決まる、平成13年度科学研究費補助金の交付状況、平成14年度科学研究費補助金の研究計画調書提出状況	
部局ニュース	10
退官教官の最終講義、理学系研究科附属原子核科学研究センター実験準備棟完成祝賀	

会開催される、佐々木総長が教育学部附属中等教育学校で授業、生産技術研究所で第15回学術講演会「環境問題の視点からこれからの工学研究を考える」開催される、史料編さん所「第六回史料学セミナー」終わる、国際シンポジウム「歴史学と史料研究」の開催、ソウル国立大学混声合唱団・東京大学音楽部コールアカデミージョイントコンサート開催される、第1回ハラズメント相談員研修会を開催	
掲示板	14
「教養学部報」第454（2月6日）号の発行、国際シンポジウムの開催について、総合研究博物館特別展示「デジタルミュージアムⅢ」、総合研究博物館新規収蔵展示「野生動物を追う」、第6回人工物工学国内シンポジウム、多言語対応版OPACの公開のお知らせ	
事務連絡（人事異動（教官、職員））	19
淡青評論「大学寮の過去と明日」	20

≡ 一般ニュース ≡

評議会（1月22日（火））承認事項

副学長選考内規の暫定措置を定める内規の制定

東京大学副学長選考内規第3条に関する暫定措置を定める内規

今後の運営等を勘案し、副学長の任期の周期をそろえるため、東京大学副学長選考内規第3条の規定にかかわらず、平成14年度予算において最初に選出される副学長の任期に係る暫定措置を定めたものである。

附 則

- 1 この内規は、平成14年1月22日以後において、国立学校設置法施行規則に東京大学の副学長3名とする規定が置かれたときに、その規定の施行の日から施行する。
- 2 この内規は、平成15年3月31日限り、その効力を失う。

東京大学安全管理委員会規則の制定

全学委員会の再編見直しに関し、先ごろ全学委員会再編WGにおいて報告書を取りまとめ、その報告書をふまえて、安全管理関係委員会を再編統合するため、この規則が制定された。

東京大学安全管理委員会規則

（設置）

第1条 東京大学における火災、自然災害、大規模事故、環境汚染、放射線等に関する安全管理を総括・監督するため、東京大学に、東京大学安全管理委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（任務）

第2条 委員会は、総長の管理の下に、次の各号に掲げる事項を調査審議し、必要に応じて総長に勧告を行うとともに、総長の指示に基づいて各部局に対する指導・助言を行う。

- (1) 安全管理体制等の実態の把握及び関連資料の整備
- (2) 具体的な安全対策の審議及びその実現施策の策定
- (3) 全学的な安全教育・予防対策等に関する立案及びその実施又は各部局への実施要請
- (4) 総合的安全管理マニュアルの策定及び緊急事態発生時の連絡、広報、対策実施の体制・分掌等の整備
- (5) 前各号に定めるもののほか、東京大学における安全管理に関し必要な事項

（組織）

第3条 委員会は、委員長、副委員長及び委員をもって組織する。

（委員長及び副委員長）

第4条 委員長は、総長が指名する副学長をもって充てる。

2 副委員長は、委員のうちから委員長が指名する。

（委員）

第5条 委員は、次の各号に掲げる者に総長が委嘱する。

- (1) 別表第1に定める各キャンパスから、部局長の互選で選出される委員
- (2) 第8条第1項に定める各部会の長
- (3) 広報委員会委員長
- (4) 交通問題委員会委員長
- (5) 医学部附属病院長
- (6) 別表第2に掲げる学内共同教育研究施設及び全国共同利用施設の長
- (7) 事務局長、企画調整官及び事務局の各部長
- (8) 前各号で掲げた者のほか総長が必要と認めた東京大学の教職員

2 第1項第1号及び第8号に定める委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

3 第1項第1号及び第8号に定める委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。（委員以外の出席）

第6条 委員長は、必要があると認めるときは、関係者を出席させることができる。

（招集及び議長）

第7条 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。（部会）

第8条 委員会は、その総括の下に、特定の事項を処理させるため、次の各号に掲げる部会を置く。

- (1) 防火・防災対策部会
- (2) 環境安全部会
- (3) 放射線安全部会

2 委員会は、前項に掲げるもののほか、必要に応じて各種のワーキング・グループ等を置くことができる。

3 前2項に規定する部会及びワーキング・グループ等の任務、組織及び運営に関しては、委員会が別に定める。（庶務）

第9条 委員会の庶務は、事務局総務部総務課において処理する。

2 各部会の庶務は、次の各号に定めるところによる。

- (1) 防火・防災対策部会の庶務は、事務局学生部学生課及び総務部総務課において処理する。
- (2) 環境安全部会の庶務は、事務局施設部企画課において処理する。
- (3) 放射線安全部会の庶務は、事務局研究協力部研究協力課において処理する。

（補則）

第10条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会の定めるところによる。

附 則

1 この規則は、平成14年4月1日から施行する。

2 東京大学防火管理委員会規程（平成9年3月18日制

定)、東京大学環境安全委員会規則(昭和49年10月15日制定)、東京大学放射線安全委員会規則(昭和35年9月20日制定)及び東京大学防火管理者会議規程(平成9年3月18日制定)は、廃止する。

- 3 本規則施行の際、現に東京大学防災対策委員会、東京大学環境安全委員会及び東京大学放射線安全委員会の委員及び委員長であるものは、その時において、それぞれ本規則第8条第1項に掲げる防火・防災対策部会、環境安全部会及び放射線安全部会の部会員及び部会長となるものとする。
- 4 東京大学防火管理規程の一部を次のように改正する。
第8条及び第9条を次のように改める。
第8条及び第9条 削除
第14条中「総長」を「東京大学安全管理委員会の議を経て総長」に改める。
- 5 東京大学防災基本規則の一部を次のように改正する。
第2章を次のように改める。
第2章 削除
第3条から第13条までを次のように改める
第3条から第13条 削除
第35条中「委員会」を「東京大学安全管理委員会」に改める。

別表第1(第5条関係)

キャンパス名	委員数
本郷地区キャンパス	2
弥生地区キャンパス	1
柏地区キャンパス	1
駒場Ⅰ地区キャンパス	1
駒場Ⅱ地区キャンパス	1
白金地区キャンパス	1
中野地区キャンパス	1

別表第2(第5条関係)

保健管理センター
アイソトープ総合センター
原子力研究総合センター
環境安全研究センター
情報基盤センター

名誉博士の称号授与

東京大学は、昨年12月に東京大学名誉博士称号授与制度を創設したところであるが、このたび本制度に基づき、最初の被授与者に、アマルティア・セン博士(ケンブリッジ大学トリニティ・カレッジ学長)を決定した。

同氏は、開発と貧困の問題に関する研究業績により、広汎な学問分野にインパクトを与え、世界の学術文化の発展に対しすぐれて顕著な貢献をなしたものとして、授与が決定されたものである。1998年にノーベル経済学賞

を受賞している。

授与式及び記念講演会は、平成14年2月19日(火)に開催する。

評議会(1月22日(火))報告事項

大学間学術交流協定

- ・東京大学とバジャジャラン大学との間における学術交流に関する大学間協定の締結
- ・東京大学とジョンズ・ホプキンス大学との間における学術交流に関する大学間協定の更新
- ・東京大学とヘルシンキ工科大学との間における学術交流に関する大学間協定の更新
- ・東京大学とノルウェー高等教育連合との間における学術交流に関する大学間協定の更新

平成14年度入試に伴う臨時措置(本郷関係)について

第2次学力試験(前期日程)の実施に伴う入構制限等の臨時措置(本郷関係)について

平成14年度の第2次学力試験 前期日程(平成14年2月25日(月)・26日(火)・27日(水))の実施のため、次のとおり入構制限等の臨時措置をとることとする。ただし、2月27日(水)は、法文1・2号館(文学部)及び山上会館の建物について、入館制限等の臨時措置をとることとする。

1. 授業の休止

第2次学力試験(前期日程)

平成14年2月22日(金)

…試験場準備のため、試験に使用する教室について、原則として午後の授業は休止する。

平成14年2月25日(月)・26日(火)

…試験当日のため、授業は休止する。

2. 試験場区域

試験場区域を次のとおり設定する。

- (1) 本郷区域(本郷構内から本部庁舎・附属病院・第二食堂建物・環境安全研究センターを除く区域)
- (2) 農学部区域(弥生キャンパスから地震研究所・農学部グラウンド・野球場を除く区域)

3. 入構制限等

(1) 入構許可

試験当日は、「受験者」、「本学教職員」、「研究のために特に入構を必要とする本学学生・研究生」及び「特に入構を許可された者」は入構できるが、その他の者の試験場区域への入構は禁止する。

なお、試験場区域においては、試験の妨げにならないよう静粛にすること。

(2) 「身分証明書」の提示

入構に際しては、次のとおり「身分証明書等」を提示するものとする。

- ① 「本学教職員」 …………… 「身分証明書」
※ 「入試実施本部関係教職員」は、「入試統一腕章」を着用する。
- ② 「研究のために特に入構を必要とする本学学生・研究生」 …………… 「学生証・研究生証」
- ③ 「特に入構を許可された者」… 「入試特別入構証」
※ 「入試特別入構証」は、第2次学力試験（前期日程）用とする。

4. 試験場区域への入・出構は、次によるものとする。

(1) 本郷区域

- ① 「本学教職員」、「研究のために特に入構を必要とする本学学生・研究生」及び「特に入構を許可された者」

正門、赤門、弥生門及び薬学部角・理学部化学館角・第二食堂前臨時ゲート

- ② 「受験者」

正門、弥生門及び薬学部角・理学部化学館角・第二食堂前臨時ゲート

なお、赤門からの入構は、正門の混雑時及び雨天・降雪時に限り中央実施本部の判断により使用する。

(2) 農学部区域

- ① 「本学教職員」、「研究のために特に入構を必要とする本学学生・研究生」及び「特に入構を許可された者」

農正門及び南門

- ② 「受験者」

農正門

(3) 上記の各門及び臨時ゲート以外からの立ち入りを禁止する。

なお、龍岡門及び池之端門は平常通りとする。

備考

1. 報道関係者等

「報道関係者等」は、腕章による識別ではなく、広報委員長の発行する「入試特別入構証」により入構を認める。

なお、報道関係者等への対応は広報委員長を通じて行う。

2. その他

- (1) 試験場区域への車両による入・出構は、原則として認めないが、やむを得ない事由のある者の入・出構は、薬学部角・第二食堂前臨時ゲート及び弥生門・農正門とする。

- (2) 附属病院の業務は平常通りとなっており、附属病院の業務に関連して、試験場区域に入構する必要がある場合には、「教職員」については「身分証明書」、「学生・研究生」については「学生証・研究生証」、「その他の者」については「入試特別入構証」を必ず提示すること。

平成14年度大学入試センター試験終わる

—本学は6試験場251試験室で—

平成14年度大学入試センター試験は、1月19日（土）、20日（日）の両日にわたって実施された。

全国の志願者数は602,090人で、国公立大学（168校）及び大学入試センター試験に参加した私立大学（310校）で一斉に行われた。

本学では、13,412人の志願者が、本郷・駒場の両キャンパスと都立高等学校1校（白鷗）・私立高等学校5校（富士見丘、海城、共立女子、開成、郁文館）の6試験場251試験室で受験した。第1日目の「外国語」では、12,140人が受験し、志願者総数に対する受験率は90.5%（前年度89.4%）であった。

第2次学力試験（前期日程・後期日程）の出願受付終わる

平成14年度第2次学力試験の願書受付が1月28日（月）から始まり、2月6日（水）に締め切られた。

志願者数は次のとおりである。

前期日程入学志願者数等

科 類	募 集 人 員	志 願 者 数	倍 率	前 年 度 の 倍 率
文科一類	544	1,740	3.2	3.2
文科二類	327	1,189	3.6	3.1
文科三類	432	1,303	3.0	3.3
理科一類	1,025	2,677	2.6	2.9
理科二類	492	2,060	4.2	4.2
理科三類	80	406	5.1	5.0
合 計	2,900	9,375	3.2	3.3

後期日程入学志願者数等

科 類	募 集 人 員	志 願 者 数	倍 率	前 年 度 の 倍 率
文科一類	61	1,209	19.8	17.9
文科二類	38	500	13.2	18.1
文科三類	53	750	14.2	14.6
理科一類	122	1,696	13.9	18.6
理科二類	59	586	9.9	10.4
理科三類	10	156	15.6	15.7
合 計	343	4,897	14.3	16.3

平成14年度外国学校卒業学生特別選考の願書受付終わる

平成14年度外国学校卒業学生特別選考の願書受付は、第1種が12月19日（水）、第2種が11月21日（水）に締め切られた。

志願者は、第1種（外国人）117人、第2種（日本人）110人、合計227人で前年度より15人増であった。

今後は、書類審査による第1次選考を行い、その合格者には2月25日（月）から第2次選考を実施する。

平成14年度外国学校卒業学生特別選考願書受付数

種別 科類	第1種		第2種		合計	
	平成14年度	平成13年度	平成14年度	平成13年度	平成14年度	平成13年度
文科一類	5件	14件	27件	29件	32件	43件
文科二類	30	24	23	26	53	50
文科三類	17	15	26	25	43	40
理科一類	54	32	19	21	73	53
理科二類	11	6	9	7	20	13
理科三類	0	2	6	11	6	13
合計	117	93	110	119	227	212

なお、志願者の種別の人数、国籍等（第1種）及び修学先の所在国名等（第2種）の内訳は、次のとおりである。

【第1種】（国・地域）

中国	85人	マレーシア	2人
韓国	21人	ベトナム	1人
インドネシア	4人	ミャンマー	1人
モンゴル	2人	エクアドル	1人

（合計） 117人

【第2種】

アメリカ	48人	イタリア	1人
イギリス	13人	マレーシア	1人
カナダ	6人	スイス	1人
オーストラリア	4人	インドネシア	1人
フランス	4人	フィンランド	1人
ドイツ	4人	エジプト	1人
シンガポール	4人	パキスタン	1人
中国（香港）	3人	イスラエル	1人
オランダ	3人	チリ	1人
中国	2人	モロッコ	1人
ニュージーランド	2人	ブルネイ	1人
ブラジル	2人	ポルトガル	1人
スペイン	1人	ノルウェー	1人
		ロシア	1人

（合計） 110人

第2次学力試験（前期日程）及び外国学校卒業学生特別選考の受験者数決まる

本学の平成14年度第2次学力試験（前期日程）の第1段階選抜が行われ、2月12日（火）午後、本郷構内において合格者が発表された。また、外国学校卒業学生特別選考第1次選考も行われ、1月下旬に各人あて通知された。

これにより、2月25日（月）・26日（火）及び27日（水）に、本郷・駒場の両地区試験場において行われる前期日程の第2次学力試験及び外国学校卒業学生特別選考第2次学力試験の受験者数が確定した。

なお、各科類の合格者数は下表のとおりである。

前期日程第1段階選抜結果

科類	募集人員	志願者数	倍率	第1段階選抜		合格者科別成績		
				合格者	予告倍率	最高点	最低点	平均点
文科一類	544	1,740	3.2	1,632	3.0	760	492	638.94
文科二類	327	1,189	3.6	984	3.0	752	582	647.81
文科三類	432	1,303	3.0	1,303	3.0	758	185	637.55
理科一類	1,025	2,677	2.6	2,564	2.5	763	598	674.23
理科二類	492	2,060	4.2	1,730	3.5	761	601	658.47
理科三類	80	406	5.1	321	4.0	771	652	703.07
合計	2,900	9,375	3.2	8,534				

外国学校卒業学生特別選考第1次選考結果

科類	第1種（外国人）		第2種（日本人）	
	志願者数	第1次合格者	志願者数	第1次合格者
文科一類	5	1	27	13
文科二類	30	8	23	8
文科三類	17	6	26	9
理科一類	54	12	19	8
理科二類	11	6	9	6
理科三類	0	0	6	3
合計	117	33	110	47

平成13年度科学研究費補助金の交付状況

平成13年度科学研究費補助金の交付状況が、ほぼまとまった。別表は、本学関係者が研究代表者となっている研究課題の交付件数・交付金額を部局別、研究種目別に表にしたものである。なお、交付件数・交付金額は、今後若干の増減がある見込みである。

平成13年度科学研究費補助金交付件数・金額一覧表

(1/3)
平成14年2月4日現在
(単位:千円)

研究種目名 部局名	特別推進研究 (1)		特別推進研究 (2)		特定領域研究 (A)(1)		特定領域研究 (A)(2)		特定領域研究 (B)(1)		特定領域研究 (B)(2)		特定領域研究 (C)(1)		特定領域研究 (C)(2)		特別研究促進費 (1)		地域連携推進研究費 (1)		地域連携推進研究費 (2)		小計		
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	
大学院法政政治学研究所										2	18,500					1	5,000						3	23,500	
大学院医学系研究所			5	436,000	1	204,000	6	48,600			3	29,900	2	486,800	22	391,800							39	1,597,100	
医学部附属病院							4	10,000			4	49,800			18	176,100	1	4,700	1	21,000	1	15,200	29	276,800	
医学部附属病院分院																									
大学院工学系研究所			1	65,000	4	128,300	17	160,900	3	21,100	10	163,500			4	20,148							39	558,948	
工学部附属総合試験所																									
大学院人文社会学系研究所	1	29,000				5	6,300	20	72,200			1	4,600			1	5,100				1	7,900	29	125,100	
大学院理学系研究所	1	147,000	3	170,000	3	51,200	29	227,300	1	9,400	14	144,600			15	144,000					1	22,800	67	916,300	
大学院農学生命科学研究科						1	41,000	11	55,300			3	24,000			10	88,400				2	27,700	27	236,400	
大学院経済学研究所											5	58,000											5	58,000	
大学院総合文化研究所			2	69,000	2	6,000	13	30,700	2	25,500	8	120,000			4	48,800	1	7,600					32	307,600	
大学院教育学研究所								1	3,900														1	3,900	
大学院薬学系研究所								16	51,200							11	81,800				1	9,900	32	187,700	
大学院数理科学研究科											1	4,200											1	4,200	
大学院新領域創成科学研究科					1	3,000	6	41,600	2	20,200	10	140,000			6	82,200							25	287,000	
大学院情報学環・学際情報学府									1	23,600	1	15,600			6	60,400							8	99,600	
大学院情報理工学系研究所								1	3,700						5	27,400							6	31,100	
医科学研究所					2	93,000	17	48,500			3	32,000	3	1,296,300	41	549,800							66	2,019,600	
地震研究所											1	6,300					2	10,300	1	7,700			4	24,300	
東洋文化研究所			1	12,000			2	4,800															3	16,800	
社会科学研究所												1	4,500										1	4,500	
社会情報科学研究所																				1	13,500		1	13,500	
生産技術研究所					1	3,000	5	49,900	1	3,600	5	73,100			2	37,300							14	166,900	
史料編さん所																									
分子細胞生物学研究所					1	53,800	4	10,500			3	29,700	1	962,100	15	184,200							24	1,240,300	
宇宙線研究所							4	155,800			2	31,300											6	187,100	
物性研究所							5	13,700	1	3,200	4	88,200											10	105,100	
海洋研究所									2	41,400	6	59,400											8	100,800	
総合研究博物館																									
低温センター							1	500															1	500	
アイソトープ総合センター																									
原子力研究総合センター																									
環境安全研究センター																									
遺伝子実験施設							3	11,000							1	8,000							4	19,000	
留学生センター																									
先端科学技術研究センター							5	67,100	1	4,500	2	62,400			2	11,500							10	145,500	
人工工学研究センター																									
生物生産工学研究センター																						1	9,000	1	9,000
アジア生物資源環境研究センター															1	4,200							1	4,200	
大学総合教育研究センター																									
国際・産学共同研究センター																									
駒場オープンラボトリー																									
空間情報科学研究センター											1	11,900			2	13,600							3	25,500	
先端経済工学研究センター																									
高温プラズマ研究センター																									
医学教育国際協力センター																									
保健管理センター																									
情報基盤センター															1	6,900							1	6,900	
気候システム研究センター											2	29,800											2	29,800	
素粒子物理国際研究センター							1	75,100			2	83,300											3	158,400	
大規模集積システム設計教育研究センター							2	96,100															2	96,100	
計	2	176,000	12	752,000	21	589,600	173	1,238,400	14	152,500	98	1,329,400	6	2,745,200	167	1,941,648	5	27,600	3	42,200	7	92,500	508	9,087,048	

※ 直接経費のみ計上

平成13年度科学研究費補助金交付件数・金額一覧表

(2/3)
平成14年2月4日現在
(単位:千円)

研究種目名 部 局 名	基盤研究 (S)		基盤研究 (A)(1)		基盤研究 (A)(2)		基盤研究 (B)(1)		基盤研究 (B)(2)		基盤研究 (C)(1)		基盤研究 (C)(2)		萌芽の研究		奨励研究 (A)		特別研究員奨励費	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
大学院法学政治学研究所					1	5,200	2	4,100	10	27,900	1	1,700	16	20,300	2	1,300	9	9,100	26	19,400
大学院医学系研究所	1	37,600			7	97,031	2	5,900	23	96,585	1	2,100	24	34,390	5	6,200	18	19,969	40	41,700
医学部附属病院			2	12,800	16	160,100	4	21,300	57	238,000	2	5,200	109	165,100	24	28,200	38	43,013	15	15,500
医学部附属病院分院																				
大学院工学系研究所	4	132,300	6	53,200	26	345,300	9	47,500	108	551,461			37	65,100	21	28,000	55	57,400	82	80,172
工学部附属総合試験所									4	18,400			1	1,300	1	600	1	800	3	3,300
大学院人文社会系研究所			4	29,000	7	51,600	3	8,000	14	48,400			26	31,800	4	2,600	9	8,700	97	88,300
大学院理学系研究所			2	11,900	22	266,560	4	20,700	55	296,400	5	13,400	33	41,600	15	12,200	32	32,012	159	161,380
大学院農学生命科学研究科	3	79,400	4	55,100	19	226,205	6	36,100	84	399,900			41	58,400	11	15,100	36	42,419	95	97,900
大学院経済学研究所					1	7,200	2	6,400	1	1,400	1	1,600	4	4,500			2	1,740	18	16,400
大学院総合文化研究所					10	80,000	8	39,600	40	149,800	4	7,800	57	65,300	9	8,400	39	39,301	119	111,174
大学院教育学研究所							4	16,400	5	19,600			5	4,400	3	2,900	2	2,800	16	17,200
大学院薬学系研究所	2	60,200			5	45,500	2	12,900	23	126,500	1	1,200	11	21,300	11	13,700	15	16,300	34	33,700
大学院数理科学研究科			3	35,900	1	8,000	4	10,400	15	42,569	2	3,000	14	18,900	8	6,400	7	7,200	38	37,701
大学院新領域創成科学研究科			2	17,200	13	117,000	4	21,400	46	203,800	1	3,100	16	26,600	16	19,400	31	34,200	49	50,600
大学院情報学環・学際情報学府					2	26,900	3	21,500	3	23,200			5	9,100	1	1,900	5	7,600		
大学院情報理工学系研究所			1	6,400	6	71,000	3	17,600	19	100,900			7	9,100	5	6,700	12	12,100	20	20,700
医学研究所			1	12,000	8	123,600	5	22,200	28	170,500	1	3,400	31	42,970	6	10,100	21	21,500	40	41,800
地震研究所			2	24,900	5	58,100	1	6,200	13	51,400			9	12,700	2	3,300	7	7,900	14	14,900
東洋文化研究所							2	10,700	1	3,700	1	2,200					1	1,200	9	9,200
社会科学研究所			1	5,900					2	3,600			4	3,200			3	3,100	6	5,400
社会情報科学研究所							1	3,500											4	3,300
生産技術研究所	3	79,900	2	15,200	8	47,590	2	9,900	39	198,283	1	3,100	11	15,500	7	7,800	18	23,900	40	38,538
史料編さん所					1	6,600			2	11,500			2	1,743					11	11,000
分子細胞生物学研究所					1	1,700	1	1,300	8	36,500			8	13,200	5	7,900	10	12,200	20	20,200
宇宙線研究所			1	3,000	4	37,000	1	4,900	2	9,800			5	6,300			2	1,200	9	9,200
物性研究所					4	52,200			13	63,000			14	22,600	4	3,200	11	12,500	16	15,100
海洋研究所			2	15,100	7	59,400	3	13,500	5	33,400	3	6,900	11	13,700	1	500	6	7,600	18	20,600
総合研究博物館					3	23,500			3	10,500			2	1,500	1	700	1	1,200	2	1,200
低温センター					1	5,100													1	700
アイソトープ総合センター					1	25,100														
原子力研究総合センター									2	14,500									1	1,200
環境安全研究センター									1	5,700			2	3,400						
遺伝子実験施設									1	8,700									1	1,300
留学生センター																			1	500
先端科学技術研究センター					5	78,900			15	85,100			3	5,300	4	5,500	7	6,031	8	7,400
人工物工学研究センター									2	7,300										
生物生産工学研究センター									1	3,100			2	4,800	1	1,500				
アジア生物資源環境研究センター					3	23,700			5	35,800			2	2,400	1	900	1	1,000	1	1,200
大学総合教育研究センター									1	4,700										
国際・産学共同研究センター													1	800	1	500				
駒場オープンラボラトリー																			1	2,000
空間情報科学研究センター									4	18,900			1	1,400			2	2,500	4	4,200
先端経済工学研究センター									1	4,200			2	1,800						
高温プラズマ研究センター			1	10,000					1	4,300										
医学教育国際協力センター																				
保健管理センター													5	9,500			1	1,400		
情報基盤センター							1	5,600					3	5,200			4	4,700	1	1,000
気候システム研究センター													1	1,100			1	1,100	5	5,600
素粒子物理国際研究センター									2	11,400									2	2,200
大規模集積システム設計教育研究センター									1	6,500									2	2,600
計	13	389,400	33	297,600	188	2,060,086	77	367,600	660	3,147,198	24	54,700	525	746,303	169	193,500	414	451,985	1,023	1,009,565

平成13年度科学研究費補助金交付件数・金額一覧表

(3/3)

平成14年2月4日現在

(単位:千円)

部 局 名	学術創成研究費		COE形成基礎研究費		小 計		合 計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
大学院法学政治学研究科	1	70,000			68	159,000	71	182,500
大学院医学系研究科	1	64,000	1	245,000	123	650,475	162	2,247,575
医学部附属病院					267	689,213	296	966,013
医学部附属病院分院								
大学院工学系研究科	2	150,000	1	150,000	351	1,658,433	390	2,217,381
工学部附属総合試験所					10	24,400	10	24,400
大学院人文社会系研究科	1	100,000	1	150,000	166	518,400	195	643,500
大学院理学系研究科			1	200,000	328	1,056,152	395	1,972,452
大学院農学生命科学研究科					299	1,010,524	326	1,246,924
大学院経済学研究科					29	39,240	34	97,240
大学院総合文化研究科	1	160,000	1	380,000	288	1,041,375	320	1,348,975
大学院教育学研究科					35	63,300	36	67,200
大学院薬学系研究科					104	331,300	136	519,000
大学院数理学系研究科					92	170,070	93	174,270
大学院新領域創成科学研究科					178	493,300	203	780,300
大学院情報学環・学際情報学府					19	90,200	27	189,800
大学院情報理工学系研究科	2	152,200			75	396,700	81	427,800
医科研究所					141	448,070	207	2,467,670
地震研究所	1	190,000			54	369,400	58	393,700
東洋文化研究所					14	27,000	17	43,800
社会科学研究所					16	21,200	17	25,700
社会情報科学研究所					5	6,800	6	20,300
生産技術研究所	2	201,000	1	310,000	134	950,711	148	1,117,611
史料編さん所			1	180,000	17	210,843	17	210,843
分子細胞生物学研究所					53	93,000	77	1,333,300
宇宙線研究所			1	330,000	25	401,400	31	588,500
物性研究所					62	168,600	72	273,700
海洋研究所	1	180,000			57	350,700	65	451,500
総合研究博物館					12	38,600	12	38,600
低温センター					2	5,800	3	6,300
アイソトープ総合センター					1	25,100	1	25,100
原子力研究総合センター					3	15,700	3	15,700
環境安全研究センター					3	9,100	3	9,100
遺伝子実験施設					3	11,200	7	30,200
留学生センター					1	500	1	500
先端科学技術研究センター	1	70,000			43	258,231	53	403,731
人工物工学研究センター					2	7,300	2	7,300
生物生産工学研究センター					4	9,400	5	18,400
アジア生物資源環境研究センター					13	65,000	14	69,200
大学総合教育研究センター					1	4,700	1	4,700
国際・産学共同研究センター					3	2,500	3	2,500
駒場オープンラボラトリー					1	2,000	1	2,000
空間情報科学研究センター					11	27,000	14	52,500
先端経済工学研究センター					3	6,000	3	6,000
高温プラズマ研究センター					2	14,300	2	14,300
医学教育国際協力センター								
保健管理センター					6	10,900	6	10,900
情報基盤センター					9	16,500	10	23,400
気候システム研究センター					7	7,800	9	37,600
素粒子物理国際研究センター					4	13,600	7	172,000
大規模構築システム設計教育研究センター					3	9,100	5	105,200
計	13	1,337,200	8	1,945,000	3,147	12,000,137	3,655	21,087,185

≡ 部局ニュース ≡

退官教官の最終講義

このたび、本学を退官される方々の最終講義・講演等の日程と題目をお知らせいたします。

大学院農学生命科学研究科・農学部

瀬尾 康久 教授 3月22日(金)15:00~16:00
(生物システム工学大講座 農学部7号館A棟114・115講義室
生物プロセス工学) 「農産機械学・生物プロセス工学の
研究を振り返って」

東洋文化研究所

後藤 明 教授 3月7日(木)14:00~16:00
(西アジア研究部門) 東洋文化研究所3階大会議室
最終研究発表会「ムハンマド伝再考」

理学系研究科附属原子核科学研究センター実験準備棟完成祝賀会開催される

原子核科学研究センターは、平成12年4月から理化学研究所加速器研究施設との共同研究を開始した。これは、東京大学と理化学研究所との研究協定に基づくものである。今回、装置・検出器の開発や関連加速器技術の開発を行うための拠点として、3階建て、延べ約1200平方メートルの実験準備棟が理化学研究所加速器施設の脇に建設された。1階には、大型の装置開発が可能な電力、冷却水などの設備や、検出器製作のクリーンルームなどが整備された。

平成13年10月31日、実験準備棟の完成記念式典が挙行された。式典は、小間副学長、佐藤理学系研究科長、酒井センター長によるテープカットで始まり、実験準備棟および実験施設が披露された。共同研究の施設として、新たに原子核科学研究センターが導入した低エネルギー2次ビーム生成分離器(CRIB)と田無キャンパスから移設した反応粒子高分解能分析器(PA)の見学会を行った。なかでも、重点的に開発を進めてきたCRIBの最初の実験の様子などが紹介された。

引き続いて行われた祝賀会では、小間副学長、小林理化学研究所理事長、佐藤理学系研究科長から、理化学研究所と東京大学の共同研究の重要性と原子核科学研究センターへの強い期待が述べられた。酒井センター長からは、CRIBでの最初の研究成果についての報告があり、ついで同センターのこれからの展望についての決意が述べられた。

式典に続いて、高エネルギー加速器研究機構の大強度陽子加速器統合計画プロジェクトリーダー永宮教授のご発声を合図に祝宴がもたれた。

東京大学からは本部事務局、理学部事務局の関係者、理化学研究所からは本部事務局、リングサイクロトロン

研究施設関係者を含む約110名であった。多くの方々から祝辞をいただき、和やかな歓談の後、会は午後8時に終了した。



(大学院理学系研究科附属原子核科学研究センター)

佐々木総長が教育学部附属中等教育学校で授業

12月1日(土)、完成したばかりの教育学部附属中等教育学校総合教育棟3階の実習・実験室で佐々木毅総長が授業をされた。「政治と経済政策—小泉内閣と浜口内閣をめぐって」と題した授業には5年生(高2)27名、教員9名が参加した。佐々木総長に学内便で送っていただいたNHK放映のビデオ『ドキュメント昭和 世界への登場』で前日に予習して生徒は臨んだ。高校生を前にして佐々木総長は、「西洋の政治思想を研究して今ようやく日本の政治にたどりついた」と前置きされ、日本史の授業でどのくらい学んだかを質問された。

「日本史の教科書で『金解禁』というのは金本位制にすることです。金本位制は国内に金をためてその金と交換できる紙幣を発行して国際的信用を高めて輸出を増やそうとする政策です」「浜口雄幸首相と井上準之助蔵相は金本位制を実現するために軍事費と公共事業を減らそうとした」「しかし、当時の反対勢力は『我田引鉄』と

言って自分の選挙区に鉄道を引こうとした。現在でも小泉内閣の下で『抵抗勢力』が高速道路を引こうとしていることに似ています」

佐々木総長の授業は、プリントも板書もない授業であったが生徒は聴き入っていた。「アメリカに借金をしながらアメリカと戦争をする矛盾、日本陸軍で軍人たちが最も喜んだことはアメリカ製のフォードやGMのトラックを買って乗りまわすこと、緊縮財政を進めるには軍事費を削ること、金解禁政策は「台風に向かって家の窓を開けるようなものだ」と言われたとか、「公共授業をなくすと総合教育棟のような立派な建物はできません」「浜口内閣も『ライオン』と言われたが小泉さんも頭が『ライオン』で共通点があります」このような佐々木総長の歴史を語る言葉に生徒は聴き入り、時に笑いを起こした。

そして、「戦前の政治家は政策を実行しようすると枢密院、貴族院、軍部や元老などと交渉しなければならないので、今の政治家より大きさにおいてはずっと上である。だから小泉さんが今『抵抗勢力』と戦っていると報道されているが、浜口首相の方がいかに大きな『抵抗勢力』と戦ったかがわかります」と言って城山三郎著『男子の本懐』（新潮文庫）を紹介された。「歴史にはいろいろな側面があるので固定的な狭い見方をするのではなく、いろいろな側面から見てほしい。そして歴史を楽しんでほしい。」という言葉で授業を結ばれた。生徒の感想の一端を紹介しよう。

「普通の授業とは違ったはりつめた空気があり、けっこう緊張しながら聴いていた。途中、冗談も交ざっていたし歴史の流れもわかりやすい授業だったと思う。（中略）とても興味深い授業だった。本物の講義とはこういうものなのだろうか。参加できたのを嬉しく思う。大切な経験になるだろう。一生の思い出。」（男子）

総長・副学長の授業に参加していつも思うことは来ていただいてよかったという生徒の感想そのものと附属学校の教員の授業に大きな刺激を与えていただいていることである。



講義をされる佐々木毅総長

(教育学部附属中等教育学校)

生産技術研究所で第15回学術講演会「環境問題の視点からこれからの工学研究を考える」開催される

生産技術研究所は、1月22日(火)第15回生研学術講演会を開催した。

生研学術講演会では、工学研究・教育のあり方について毎年議論を重ねてきているが、今回は「環境問題の視点からこれからの工学研究を考える」をテーマに、環境評価で推し量る人類社会の持続可能性、地球規模の環境保持につながる資源リサイクルの研究、我々の生活に密着した騒音や、シックハウスなどの具体的な問題が取り上げられた。

講演会は、坂内正夫所長の挨拶に始まり、安井至教授の「ライフサイクルアセスメントで測る持続可能性」、岸利治助教授の「コンクリート資源の循環利用」、加藤信介教授の「室内環境汚染」、加藤千幸助教授の「流体騒音の予測と低減」、石井勝教授の「LEMP-雷放電に伴う電磁界パルス」の各講演が行われた。

当日は、様々な方面の聴講者が訪れ、講演に耳を傾けるとともに、講演後は熱心な質疑応答もあり、今回のテーマに対する関心の高さがうかがわれた。



(生産技術研究所)

史料編さん所「第六回史料学セミナー」終わる

本年度で第6回目となる史料編さん所主催の公開講座「史料学セミナー」が、1月12日に、延べ4日間の講義日程を終了した。本セミナーは、「史料学」を大きなテーマとして掲げ、古代から維新期までの日本史史料について、昨年11月から1月の土曜日、日曜日の午後に各2講ずつ計8講の講義を行った。講師と題目については、学内広報（7月11日付1218号）に掲載した受講者募集案内の通りである。また、本所ホームページでも募集・内容説明を行った。応募者多数のため、定員30名のところを40名まで増やして受講者を受け入れ、最終日には、受講者38名に対し、加藤友康所長より修了証を授与した。

本年度の史料学セミナーは、史料編さん所の史料集発刊100周年記念事業の一環として、本所が東京国立博物館と共催した特別展「時を超えて語るもの—史料と美術の名宝—」の展示史料と連動した講義内容であった。4日間のうち2日間（12月15・16日）は、会場を東京国立博物館資料館のセミナー室に移し、同館の島谷弘幸氏にも講師陣に加わっていただいた。各講師とも熱のこもった講義を行い、特別展と連動した講義内容・構成ともあいまって、受講者に好評を博した。



▲吉田成技術専門職員による
「史料写真の保存と復元」講義風景



▲修了証授与式

(史料編さん所)

国際シンポジウム「歴史学と史料研究」の開催

1月25日(金)・26日(土)、史料編さん所の史料集発刊100周年記念事業の一環として国際シンポジウム「歴史学と史料研究」が山上会館において開催された。第1日は、加藤友康史料編さん所長の開会挨拶、近藤成一史料編さん所教授の問題提起に続いて、ペーター・モラフドイツギーゼン大学教授、オリビエ・ギョジャンフランス国立古文書学校教授、李成茂韓国国史編さん委員会委員長、アントニ・ウセル上智大学講師の4氏により、ドイツ・フランス・韓国・イエズス会のそれぞれにおける史料の調査・研究・編さんに関する諸問題が報告され、討議された。なおギョジャン氏は急用により来日できなかったため、あらかじめ用意された原稿にもとづき、渡辺節夫青山学院大学教授により報告内容がコメントをつけて紹介された。第2日は、宮地正人国立歴史民俗博物館長、マーガレット・メールデンマークコペンハーゲン大学講師、小路田泰直奈良女子大学教授、デトレフ・タランチェフスキドイツボン大学講師、ジョン・S・ブラウリーカナダトロント大学教授、ロナルド・トビ本学人文社会系研究科教授により、史料編さん所を中心とする史学史上の諸問題が報告され、討議された。第1日午前中には佐々木毅総長の祝辞があり、また夕刻には会場の山上会館ロビーにおいてレセプションが行われ、石井紫郎総合科学技術会議常任議員（本学元副学長）の発声で乾杯した後、参加者がなごやかに懇談した。シンポジウ





ム参加者は特設第2会場を合わせて延べ約400名であった。

(史料編さん所)

ソウル国立大学混声合唱団・東京大学音楽部 コールアカデミージョイントコンサート開催 される

1月16日(水)午後6時30分から文京シビックホール大ホールにおいて韓国「ソウル国立大学混声合唱団」と本学の「東京大学音楽部コールアカデミー」のジョイントコンサート東京公演が開催された。

このジョイントコンサートは、2002年サッカー・ワールドカップが日韓共催で開かれることを記念すると共に、2002年日韓国民交流年記念事業の一つとして、双方の合唱団が日韓両国と両大学を相互訪問し日韓のアマチュア合唱文化を相互紹介することにより、両国民の音楽文化の発展と友好関係の深まりを目指すイベントとして、双方の学生同士の主体的な取り組みにより実施されたものである。

東京公演に先立ちソウル公演が1月13日(日)にソウル市内のソウルアートセンターで行われ、3,000人を超える観客を集め盛況に終了していた。

東京公演の前日1月15日(火)には、ソウル国立大学混声合唱団の学生及び関係教職員を招いてのレセプションが山上会館1階談話ホールで催された。ソウル国立大学からは音楽部長の成宏模(ソン・コエンモ)教授を始め学生・教職員合わせて100名を超す参加者があり、本学からは佐々木毅総長、矢川元基音楽部長(工学系研究科教授)を始め音楽部コールアカデミーの学生及び関係教職員50名が参加し、盛会の内に両大学の友好を深めた。

1月16日当日、コンサート会場には佐々木総長を含め約750名の観客が訪れ両大学合唱団の歌声に熱心に聞き入っていた。ステージは第1ステージから第5ステージまでの構成に分かれ、第1と第3ステージをソウル大学混声合唱団が、第2と第4ステージを東京大学音楽部コールアカデミーがそれぞれ受け持ち、自国の民謡や民謡を基本にして作曲された合唱曲、また、宗教音楽やルネッサンス期の合唱曲が披露された。第5ステージでは

両合唱団が合同でステージに立ち、オーケストラの伴奏のもとヘンデルの合唱曲「メサイヤ」が演奏された。どのステージでも演奏の前と後に観客席から暖かい拍手が大きく寄せられ、両合唱団に強い励ましとなった。

第5ステージ終了の後アンコールのステージでは、両合唱団合同で両国の民謡・童謡が披露されたが、全ての演奏が終了した後一段と強い大きい拍手が長く寄せられた。ソウル公演に比べ観客数は少なかったものの、拍手の大きさ暖かさは、ソウル大学混声合唱団への歓迎と合唱レベルへの賞賛を、そしてこの公演が成功であったことを物語っていたように思われた。

今回のジョイントコンサートは、昨年6月にソウル大学混声合唱団から音楽部コールアカデミーに対し呼びかけがあったことによりスタートし、学生同士による手作りのイベントとしては初めての試みであり不安と戸惑いもあったが、双方の合唱団の協力と連携により無事成し終えることができた。双方の学生にとって貴重な経験となったが、何よりも大きな収穫は、共同で事業を進める中で連帯感と友情が強く培われたことにあったようである。

最後に、今回の企画に対し助成をいただいた「日韓文化交流基金」と「国際交流基金」に、また後援をいただいた「ソウル大学」「2002年FIFAワールドカップ韓国組織委員会」「2002年FIFAワールドカップ日本組織委員会」「在大韓民国日本大使館」「在日本大韓民国大使館」「日本国外務省」「大韓民国文化交流部」「東京大学同窓会連合会」に、さらに学内で大きく支えてくださった



ソウル国立大学混声合唱団単独ステージ



音楽部コールアカデミー単独ステージ

佐々木総長を始めとする大学及び音楽部関係者の方々に
対し厚くお礼申し上げます。

(学生部)

第1回ハラスメント相談員研修会を開催

去る平成13年12月26日(水)13時30分～16時30分に「第
1回ハラスメント相談員研修会」が文学部2番大教室で
開催された。

この研修会は、各部局のハラスメント相談員を対象と
して、ハラスメント相談所主催で実施されたもので、研
修会は、碓井ハラスメント相談所長の開会挨拶で始まり、
小柳茂子ハラスメント相談所相談員から「相談に関する
基本的留意点」や「ハラスメントへの理解」等について
の講義の後、実際のケースを想定し、5つの事例に対応
する形で、5班に分かれて班別演習が行われた。

今回は、全学の相談員のうち約40名が参加し、講義で
は相談の重要性、難しさを改めて実感するとともに、班
別演習においては各班とも熱のこもった討議が活発に展
開され、最後に、各班の発表並びに講師コメントが行わ
れ、予定の時間を大幅に超過して終了した。

なお、今後も更に内容の充実を図り、回を重ねてゆく
予定である。



(ハラスメント相談所)

≡ 掲示板 ≡

「教養学部報」第454(2月6日)号の発行

——教官による、学生のための学内新聞——

丹野義彦：「教養崩壊」は本当か？

学生生活実態調査の報告とお願い

藤垣裕子：狂牛病問題の提起するもの

科学技術社会論の課題

エンゲルハルト・ヴァイグル：場所を転換する

古城佳子：東アジアにおける共通文化の創出をめざして

東アジア四大学フォーラム2001年ハノイ会議

に出席して

友田修司：不斉面選択制御の美学

野依良治教授のノーベル化学賞受賞に寄せて

近藤安月子：東京大学教養学部短期交換留学(AIKO
M)の留学生——日本語教育から見えること

石井直方：アンチ・エイジングの実験と実践
ボデビル現役選手に復帰して

〈駒場をあとに・送ることば〉

福永哲夫：身体教養の提案

跡見順子：「福永先生を送る」—実践の人・和と環の人—

川口昭彦：駒場の十九年

大森正之：川口昭彦先生を送る

〈研究所めぐり〉

大森俊雄：生物生産工学研究センター

環境、食糧問題の解決を目指して

〈私のいち押し〉特集：春休み

斎藤兆史：伊藤彦造のペン画

池上俊一：デ・シモーネの陶器

内山 融：MITとハーヴァード

橋本幸士：シャーロック・ホームズ学

片岡清臣：人付き合いと模型ヘリコプター

〈本の棚〉

佐藤俊樹：清水剛著『合併行動と企業の寿命』

三浦 篤：田中純著『アビ・ヴァールブルク 記憶の迷宮』

形象、記憶、憑依

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、図
書館入口、学生課ロビー、生協書籍部、保健センター駒
場支所で無料配布しています。バックナンバーもあります。

(大学院総合文化研究科・教養学部)

国際シンポジウムの開催について

INTERNATIONAL SYMPOSIUM

Emerging Fields of Biomedical Research and New In-
dustry

by Integrating Biotechnology, Information Technology
and Nanotechnology

国際シンポジウム

BT、IT、NTを融合する新領域の育成と新産業の創成

2002年3月12-13日

東京大学医科学研究所 1号館講堂

〈組織委員会〉

新井 賢一(医科学研究所長) 桐野 高明(医学系研
究科長) 桐野 豊(薬学系研究科長)

河野 通方(新領域創成科学研究科長) 小宮山 宏(工

学系研究科長) 坂内 正夫 (生産技術研究所長)
南谷 崇(先端科学技術研究センター長) 宮野 悟/(医
科学研究所副所長)

■参加費無料

■日英同時通訳付き

■講演者の都合によりプログラムが変更になることがあ
りますので、予めご了承ください。

■問い合わせ・申込先 東京大学医科学研究所 松井紀
依 (m-toshie@ims.u-tokyo.ac.jp)

会場 (東京大学医科学研究所 1号館講堂 東京都港区
白金台4-6-1 [http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/
imswww/About/Access-j.html](http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imswww/About/Access-j.html)参照) の座席に制限が
ありますので、3月1日(金)までに、1)住所、2)
所属、3)氏名、4)連絡先を明記の上、e-mailにて
お申し込み下さい。

DAY 1 —Tuesday, March12, 2002

- 0930—0935 Opening Remarks
Ken—ichi Arai, Dean, Institute of Medical
Science, Univ. of Tokyo, Japan
- 0935—0950 Remarks by the University of Tokyo
- 0950—1200 **Session 1 : Policy and Strategy**
Chair : Satoru Miyano, IMSUT
- 0950—1020 Hiroyuki Yoshikawa, President, AIST, Ja
pan
- 1020—1050 Kong Peng Lam, Senior Investigator,
IMCB, SNU, Singapore
- 1050—1100 Coffee Break
- 1100—1130 John Ryan, Department of Physics, Ox
ford University, U.K
- 1130—1200 Koji Omi, Minister of State, Science and
Technology Policy, Japan
- 1200—1300 Lunch
- 1300—1345 **Special Lecture**
Chair : Yoshito Kaziro, Emritus Professor, Univ. of To
kyo, Japan
- 1300—1345 Sunney Chan, Academic Vice President,
Academia Sinica, Chinese Taipei
- 1345—1830 **Session 2 : Biotechnology**
Chair : Ken—ichi Arai, IMSUT
- 1345—1415 Kazunari Taira, Graduate School of Engi
neering, Univ. of Tokyo, Japan
- 1415—1445 Jin—Ho Seo, Professor, Dept. of Food Sci
ence and Technology, Seoul National
Univ., Korea
- 1445—1515 Yusuke Nakamura, Director, Human
Genome Center, Institute of Medical Sci
ence, Univ. of Tokyo, Japan
- 1515—1530 Coffee Break
- 1530—1600 Yu—xian Zhu, Professor, College of Life

Sciences, Peking Univ., China

- 1600—1630 Shin—ichi Nishikawa, Professor, Graduate
School of Medicine, Kyoto Univ., Japan
- 1630—1700 Keith Stanley, Research Centre for Immu
nology, Australia
- 1700—1730 Yoshikazu Nakamura, Professor, Institute
of Medical Science, Univ. of Tokyo, Japan
- 1730—1800 Taro Uyeda, Gene Discovery Research
Center, National Institute of Advanced
Industrial Science and Technology, Japan
- 1800—1830 Eisaku Katayama, Associate Professor, In
stitute of Medical Science, Univ. of Tokyo,
Japan
- 1830— Reception at Medical Science Museum

DAY 2 —Wednesday, March13, 2002

- 0930—1225 **Session 3 : Venture Companies & Indus
tries**
Chair : Hisashi Iwase, President and CEO, BioDiscov
ery K.K.
- 0930—0950 Ichiro Nakatomi, President, NanoCareer,
Japan
- 0950—1010 Sunao Ishihara, Director, NTT Basic Re
search Laboratories, Japan
- 1010—1030 David Gelfand, Vice President, Roche Mo
lecular Systems, USA
- 1030—1050 Kiyozo Asada, Director, Dragon Genom
ics, Japan
- 1050—1105 Coffee Break
- 1105—1125 Masaaki Muramatsu, HuBit Genomix, Ja
pan
- 1125—1145 Andy Watson, Vice President, Quantom
Dot Corporation, USA
- 1145—1205 Toshifumi Watanabe, Takeda Pharmaceu
ticals, Japan
- 1205—1225 Hirofumi Doi, Celestar Lexico Sciences,
Japan
- 1225—1330 Lunch
- 1330—1415 **Special Lecture**
Chair : Takashi Nanya, RCAST
- 1330—1415 Leroy Hood
Director/President, Institute for Systems
Biology, USA
- 1415—1835 **Session 4 : Information Technology &
Nano Technology**
Chair : Yoichi Okabe, RCAST
- 1415—1445 Tomoji Kawai, Professor, Institute of Sci
entific and Industrial Research,
Osaka Univ., Japan
- 1445—1515 Sung June Kim, Director, Nano Bioelec
tronics and Systems ERC, Seoul National

- Univ., Korea
- 1515-1545 Ken Snowdon, Director, Institute for Nanoscale Science and Technology, Univ. of Newcastle upon Tyne, U.K.
- 1545-1600 Coffee Break
- 1600-1630 Takehiko Kitamori, Professor, Graduate School of Engineering, Univ. of Tokyo, Japan
- 1630-1700 Masaru Tomita, Professor, Keio Univ., Japan
- 1700-1730 Johnsee Lee, Executive Vice President, Industrial Technology Research Institute, Chinese Taipei
- 1730-1800 Haruki Nakamura, Professor, Institute for Protein Research, Osaka Univ., Japan
- 1800-1830 Kazuko Matsumoto, Professor, Waseda Univ., Japan
- 1830-1835 Closing Remarks

(医科学研究所)

総合研究博物館特別展示「デジタルミュージアムⅢ」

東京大学総合研究博物館では、東京大学大学院情報学環との共催で、特別展「デジタルミュージアムⅢ」を開催いたします。本展は、東京大学総合研究博物館設立時より推進している博物館や美術館にデジタル技術を導入して新しいミュージアムを構築することを目指した、東京大学デジタルミュージアムプロジェクトの成果を披露する展覧会です。

コンピュータの上で仮想博物館を構成するMMMUD (Multi-Media Multi-User Dungeon) システムや、各来館者の知識や要求に合わせて展示を個人化するためのパーソナライズ展示、そのために非接触型スマートカード(博物館カード)を使った博物館展示システムなど、将来の博物館展示を支える重要な技術を紹介します。

主催：東京大学総合研究博物館

共催：東京大学大学院情報学環

協力：東京大学史料編纂所

東京大学東洋文化研究所

東京大学理学部附属植物園

東京大学文学部考古学研究室

東京大学文学部国文学研究室

東京大学文学部国語学研究室

総合研究博物館新規収蔵展示「野生動物を追う」

長いあいだ動物の野外研究は双眼鏡と野帳でおこなわれてきた。そこには、素朴な機器類に頼るよりも健康な

脚と鋭い観察眼こそ野生動物をとらえることのできる最良の道具であらねばならないという信念のようなものがあった。しかし哺乳類は夜行性のものが多く、また鳥類は飛翔力にすぐれている。どのようにがんばっても人間の努力でどうにも知ることのできない領域が厳然と存在した。現代の機器類の発達、このような分野へも積極的な展開を見せるようになった。たとえば1,000kmを越えるような大規模な渡りをする鳥類に電波発信器をつけ、それを衛星で受信すれば渡りのルートを知ることができるという、夢のようなことが可能になった。また山の中にカメラをセットしておけば暗闇を歩く野生動物の写真を撮影することが可能となった。

今回の展示では、野生動物を追う研究者たちが使っている捕獲装置、追跡装置、自動撮影装置などやその成果を紹介し、野生動物の野外研究の前線の雰囲気伝えたい。

開催概要

場 所：東京大学総合研究博物館 1 階展示ホール

期 間：2002年1月12日(土)～2月24日(日)

休館日：月曜日

ただし1月14日(月)、2月11日(月)は祝日のため開館

1月15日(火)、1月19日(土)、1月20日(日)、2月12日(火)は閉館

開 館：10:00～17:00 (入館は16:30まで)

入館料：無料

問い合わせ：ハローダイヤル03-5777-8600

URL：<http://www.um.u-tokyo.ac.jp/>

その他：ポスターは学内各所に掲示してあるほか、キャンパス内の総合研究博物館の看板に掲示してあります。

(総合研究博物館)

第6回人工物工学国内シンポジウム

このたび、人工物工学研究センターは、この3月末日を持って10年間の時限を迎えることとなり、4月より新たに10年間の時限付きセンター組織として、第2期を開始することが決定されました。

これを踏まえ、来る3月4日に第6回の国内シンポジウムを開催し、第1期における当センターの活動内容を整理・報告させて頂くと共に、新たに開始する第2期に向けての決意を表明いたします。

国内シンポジウムの詳細については、以下のとおりです。

皆様方のご参加をお待ちしております。

開催日時：2002年3月4日(月) 10:00～18:10

会 場：東京大学弥生講堂(東京大学弥生地区)

主 催：東京大学人工物工学研究センター

共 催：東京大学工学系研究科

シンポジウム参加費：無料

懇親会：18:30～ 於：山上会館

懇親会参加費：5,000円

◎参加お申し込み・お問い合わせ先

東京大学人工物工学研究センター内

第6回人工物工学シンポジウム事務局

〒153-8904 東京都目黒区駒場4-6-1

TEL：03-5453-5887 FAX：03-3467-0648

e-mail：race-symposium@race.u-tokyo.ac.jp

http://www.race.u-tokyo.ac.jp/6th_sympto/

参加ご希望の方は、御名前・御所属・懇親会参加の有無を明記の上、2月25日までに上記シンポジウム事務局あてにお申し込みください。勝手ながら定員300名さまに限らせていただきます。

(人工物工学研究センター)

多言語対応版OPACの公開のお知らせ

情報基盤センター図書館電子化部門と附属図書館では昨年3月の図書館業務システムの更新に伴い、オンライン蔵書目録(OPAC: Online Public Access Catalog)のサービスを一新し、検索スピードをアップさせるほかWebリクエストサービスの開始など図書館サービス全般の向上を進めてきました。

このたび、さらにOPACの機能を高度化し、これまでのOPACでは難しかった簡体字を含む中国書を検索・表示できる「多言語対応版OPAC」のサービスを開始しました。

多言語対応版OPACサービスURL
<http://mul.dl.itc.u-tokyo.ac.jp>

これまでのOPACでは、中国語の簡体字は、「◆U56FE◆◆U4E66◆◆U9986◆」のように黒菱形で囲まれた文字として表示され、タイトルの判読すら難しいものでした。(図1)

多言語対応版OPACでは、中国語の簡体字も所蔵情報中の日本語の漢字も全て文字化けなく表示されます。

(図2)

[検索方法]

中国書の目録データ中には、漢字タイトルに加え、単漢字単位で分かち書きされたタイトル等のピンインが入力されていますので、漢字タイトル形に加えて、ピンインによる検索が可能です。

また、漢字は「漢字統合indexシステム」により、同義の日本語、中国語の漢字はどちらの漢字でも検索が可能になっています。

[表示方法]

多言語対応版OPACで画面上に表示される文字コードにはUCS (UTF-8) 文字セットを使用しています。したがってUCS文字セット対応のブラウザを準備してください。Windows PC, Macintosh PCともに、Internet Explorer 5.5, Netscape 6.0以上を推奨します。

多言語対応版OPACで、中国語資料を検索するために

は中国語の入力・表示が可能なソフトが必要です。

WindowsPC:

Microsoft GlobalIME, ChineseWriter など

*Microsoft GlobalIMEはMicrosoft社のホームページより、無償で入手できます。

MacintoshPC:

Apple Language Kit中のChinese Language Kit

現在、東京大学全体では約28万点の現代中国書を所蔵していますが、現時点でOPACデータベースには約6万点の現代中国書の目録データが入力されています。附属図書館では、平成12年度及び平成13年度に文部科学省から図書館機能高度化経費を受け、総合図書館、東洋文化研究所、文学部、経済学部、社会科学研究所などの中国書を所蔵している図書館・室を中心に中国書の遡及入力を進めています。

現段階での入力の対象は現代中国書に限られていますが、今後は国立情報学研究所(NII)の各国語目録データの入力基準の整備に合わせて韓国・朝鮮語やアラビア語の資料など本格的な多言語対応目録への展開を進めていく予定です。

問い合わせ先：情報基盤センター学術情報リテラシー掛
(literacy@lib.u-tokyo.ac.jp)



図1 東京大学OPACでの中国書データの表示
<http://opac.dl.itc.u-tokyo.ac.jp>



図2 東京大学多言語対応版OPACでの中国書データの表示

(情報基盤センター・附属図書館)

【訂正】

「学内広報」No. 1228 (2002. 1. 23) において、一部誤りがありましたので訂正してお詫びします。

12ページ、13ページの「国又は地域別外国人留学生数」において、12ページと13ページの間に以下の表を追加

国又は地域別外国人留学生数

平成13年11月01日現在

国名又は地域名	国 費					私 費					合 計					総 計		
	学 部		大 学 院 等			学 部		大 学 院 等			学 部		大 学 院 等					
	学 生	研究生等	修 士	博 士	研究生等	小 計	学 生	研究生等	修 士	博 士	研究生等	小 計	学 生	研究生等	修 士		博 士	研究生等
パプア・ニューギニア				1		1			1			1			1	1		2
小 計	6		5	4	7	22		4	1	2		7	6	4	6	6	7	29
北米																		
カナダ	1		1	2	6	10				2	2	4	1		1	4	8	14
アメリカ合衆国			4	5	15	24		5		3	11	19		5	4	8	26	43
小 計	1		5	7	21	34		5		5	13	23	1	5	5	12	34	57
中南米																		
メキシコ	1		1	2	2	6							1		1	2	2	6
エルサルバドル			1	1		2									1	1		2
コスタリカ			1			1			1			1			2			2
ブラジル			9	5	4	18				2	2	4			9	7	6	22
パラグアイ	1			1		2							1			1		2
アルゼンチン	1		2	3		6							1		2	3		6
チリ			2		3	5									2		3	5
ボリビア										1		1				1		1
ペルー				2		2				1		1				3		3
コロンビア				1		1			2			2		2		1		3
ジャマイカ				2		2										2		2
小 計	3		16	17	9	45		3	4	2	9	9	3	19	21	11	54	54
ヨーロッパ																		
フィンランド											1	1					1	1
スウェーデン				2	1	3		1		2		3		1		4	1	6
ノルウェー			1		1	2								1			1	2
デンマーク					1	1											1	1
イギリス			1	1	4	6		3		3	1	7		3	1	4	5	13
ベルギー			1		1	2									1		1	2
ルクセンブルグ				1		1										1		1
オランダ			1	1	2	4								1	1	1	2	4
ドイツ			1	8	2	11		1		2	5	8		1	1	10	7	19
フランス			12	3	11	26		3		2		5		3	12	5	11	31
スペイン				4	3	7										4	3	7
ポルトガル	1				1	2							1				1	2
イタリア			2	1	3	6				2		2		2	3	3	3	8
マルタ				1		1										1		1
ギリシャ					1	1				1		1				1	1	2
オーストリア				1	1	2										1	1	2
スイス					2	2					2	2					4	4
ポーランド			1	2	3	6					1	1			1	2	4	7
チェコ				2	1	3										2	1	3
ハンガリー	3				4	7							3				4	7
ユーゴスラビア			1			1									1			1
ルーマニア	3		1		1	5				1		1	3		1	1	1	6
ブルガリア	3				4	7				2		2	3			2	4	9
アルバニア				1		1										1		1

≪ 事務連絡 ≫

人 事 異 動 (教官)

発令年月日	氏 名	異動内容 (新官職)	旧 (現) 官職等
		(昇 任)	
13. 1. 16	鎌 田 実	大学院工学系研究科教授	大学院工学系研究科助教授
〃	高 木 周	大学院工学系研究科助教授	大学院工学系研究科講師
〃	鴨 川 達 夫	史料編さん所助教授	史料編さん所助手
14. 2. 1	齋 藤 英 昭	医学部教授	医学部附属病院手術部手術機器・設備・管理運営システム学領域助教授
〃	中 村 周 吾	大学院農学生命科学研究科助教授	大学院農学生命科学研究科助手
〃	富 川 伸 二	医科学研究所附属病院助教授	医科学研究所附属病院講師
〃	三 木 裕 明	医科学研究所助教授	医科学研究所助手
〃	菊 地 康 人	留学生センター教授	留学生センター助教授
〃	柳 澤 純	分子細胞生物学研究所助教授	分子細胞生物学研究所助手
〃	野 尻 秀 昭	生物生産工学研究センター助教授	生物生産工学研究センター講師
		(転 出)	
14. 1. 8	月 尾 嘉 男	総務省総務審議官	大学院新領域創成科学研究科教授
14. 1. 28	室 町 泰 徳	東京工業大学大学院総合理工学研究科助教授	工学部附属総合試験所助教授
14. 2. 1	谷 憲三朗	九州大学生体防御医学研究所教授	医科学研究所附属先端医療研究センター助教授
		(併 任)	
14. 1. 8	月 尾 嘉 男	大学院新領域創成科学研究科教授	総務省総務審議官

人 事 異 動 (職員)

発令年月日	氏 名	異動内容 (新官職)	旧 (現) 官職等
		(辞 職)	
14. 1. 31	北 岡 愼	辞 職	経理部管財課長
〃	石 川 清 康	〃	医学部附属病院医事課専門職員
		(転 任)	
14. 2. 1	保 科 豊 次	経理部管財課長	京都工芸繊維大学会計課長

大学寮の過去と明日

昨年(2001年)の8月22日、台風11号が直撃する中、東京地方裁判所の執行官によって、旧駒場寮建物明渡しの強制執行が行われた。旧制一高時代の1935年以来、60余年にわたる歴史をもつ駒場寮は名実ともに幕を閉じた。約半年を経た今、旧駒場寮はすでに解体され、跡地の再開発計画が進んでいる。

廃寮反対運動の過程で、寮に立てこもった学生諸君に歴史に関する感覚がいささか欠けていたのではないかと感じる教官は、おそらく私一人ではないだろう。さまざまな形で報道されてきたように、近年の寮の荒廃ぶりは目に余るものがあった。学生諸君が守るべき目標は、24時間束縛されずに活動できる自由な空間の確保であり、それが駒場寮という建物である必然性はなかったようだ。歴史建造物に対する愛着がもう少しでもあったならば、学部当局との間で、別の形の建設的な対話が可能だったかもしれない。

さて、他の多くの大学人と同じく、私も海外の大学で開催される研究集会に毎年出かけ、そのたびに当地の学内寮や寮食堂のお世話になっている。寮内のバーやプールでリフレッシュす



ることもあれば、図書館やインターネットを無料で利用させてもらうこともある。休暇中の学生たちの荷物はきれいに片づけられ、居室は決して豪華ではないが清潔で快適。そして、経済的である。久しぶりに会う研究仲間と寝食を共にしながら議論する中から、研究のアイデアがつぎつぎと沸いてくる。

会話が盛り上がったところで海外の同僚から、大会のホストを今度はずいぶん東大で引き受けて欲しいとしばしば口説かれるのだが、一転、宿舎と会議場の問題が頭をよぎり、暗い返事をせざるをえない。

昨今、世界のトップクラスの大学という言葉が飛び交っているが、こと国際会議の招へい能力に関して言えば、本学(とくに駒場キャンパス)の遅れは際立っている。

今の状況で欧米タイプの新学内寮の建設をというのは夢物語かもしれない。しかし、現在検討中の駒場寮の跡地利用計画は、ぜひロングレンジの(少なくとも22世紀までを見据えた)マスタープランであって欲しい。なぜ欧米の大学寮が数世紀にわたって存続し、かつ機能し続け、他方、なぜ駒場寮が解体される運命に至ったのか。今、歴史を総括し、将来を展望する叡知が教官側にも学生側にも問われている。

(大学院総合文化研究科 長谷川 寿一)

(淡青評論は、学内の職員の方々にお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

[次号の原稿締切]

2月20日(水) 午後5時

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務課広報室を通じて行ってください。

No. 1229

2002年2月14日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学総務課広報室 ☎ (3811) 3393

e-mail kouhou@adm.u-tokyo.ac.jp

ホームページ <http://www.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>